

1. 実況上の着目点

① 高気圧が九州付近にあってほとんど停滞。地上の昇温の影響で大気の状態が非常に不安定となり、西～北日本にかけて内陸で局地的に1時間50mm以上の非常に激しい雨を解析し、発雷を多数検知、西日本の府県で竜巻注意情報を発表。また、先島諸島付近では高気圧の縁辺を回る暖湿流の影響で1時間50mm以上の非常に激しい雨を解析し、発雷を検知。

② 500hPa5640m付近で-9℃以下の寒気を伴うトラフ対応の低気圧がアムール川下流付近にあって、東北東進。

③ 台風第3号が小笠原近海を北北東進。フィリピンの東には低圧部があってほとんど停滞。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の高気圧は、5日にかけて、ゆっくり南へ移動する。高気圧に覆われるため、全国的に5日にかけて、晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。また、地上の昇温や高気圧の縁辺を回る下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い非常に激しい雨が降る所がある。西～北日本では4日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒・注意。全国的に5日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。大気中下層の風が弱く対流雲の動きが遅いため、雨量が増える可能性に留意。

② 1項②の低気圧は4日にかけてオホーツク海に進む。低気圧に向かって850hPa θ e345K前後の下層暖湿気が流入する。また、500hPa 5760m付近で-6℃以下の寒気を伴うトラフ対応の低気圧が4日夜までに日本海中部で発生し、5日にかけて北海道付近へ進む。また、300hPaで-30℃以下の寒気を伴うトラフが5日に北～東日本を通過する。これらの低気圧へ向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨が降る所がある。北日本では4日から5日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。また、低気圧と日本のはるか東の高気圧との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き波が、やや高くなる所がある。北海道地方では4日にかけて、強風に注意。

③ 1項③の台風第3号は小笠原近海を北上し、4日は日本の東を北東へ進み、次第に日本から遠ざかる。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：関東甲信・東海100mm。
- ② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。
- ③ 高潮(明日まで)：西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図